

1. 評価結果概要表

評価確定日 平成21年3月5日

【評価実施概要】

事業所番号	4072500467
法人名	有限会社KSカムレイド
事業所名	グループホーム 松の実
所在地 (電話番号)	福岡県大川市大字向島2665 (電話) 0944-86-7286
評価機関名	社団法人 福岡県介護福祉士会
所在地	福岡市博多区博多駅前中央街7-1シック博多駅前ビル5F
訪問調査日	平成21年1月22日

【情報提供票より】(平成20年12月20日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 17年 4月 1日
ユニット数	2 ユニット 利用定員数計 18 人
職員数	23 人 常勤 13人, 非常勤 10人, 常勤換算 23人

(2) 建物概要

建物形態	併設 <u>単独</u>	新築 <u>改築</u>
建物構造	木造	
	2階建ての	1階 ~ 2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	21,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有(円)	<u>無</u>		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり	840	円	

(4) 利用者の概要(平成20年12月20日現在)

利用者人数	17 名	男性	3 名	女性	4 名
要介護1	5 名	要介護2	4 名		
要介護3	6 名	要介護4	1 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 84 歳	最低 65 歳	最高 95 歳		

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	酒井小児科内科医院、福田病院、中島歯科、高木病院
---------	--------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

筑後川下流の閑静な環境に立地したホームである。国指定重要文化財である「東洋一の昇開橋」をホームから眺めることができる。昇開橋祭りをはじめ地域のお祭りが年間を通して行われ、職員とともに利用者も参加している。ホームの利用料金が経費で利用しやすい設定となっている。また職員の中にはフィリピン出身者がおり、書類の記載など戸惑いがないように職員全員で助け合い、利用者とも隔たりなく生活ができています。開設されて4年のうちに退職した職員は少なく、利用者・職員にとって双方に良い環境であることが伺われる。地域密着型ホームとして今後も期待されるホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 前回の外部評価において、地域の中でその人らしく生活する意味の理念を掲げることが望まれる、と評価を受けた。その後、管理者、職員全員で話し合い、地域密着型としての新しい理念を作り上げている。
	②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 自己評価の記入は管理者と、計画作成担当者が記入している。職員に項目毎に自己評価の内容を確かめ記入しているが、職員によっては部分的にしか内容を理解していない。
重点項目	③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 年に5回ほど、利用者代表、家族代表、地域の代表、行政代表の参加で運営推進会議を行っている。普段のありのままの姿を見て欲しいという気持ちから花見や、敬老会などの行事催し後に引き続き開催している。運営推進会議のなかで「年間報告」「利用者の現状報告」など行っている。参加メンバーからの意見や要望などについて議事の記録がなく、会議で話し合われた内容が把握できない状態である。
重点項目	④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8, 9) 健康状態に異変があったときはその都度家族に報告をしている。1年に1度健康状態や暮らしぶりをまとめたものを送付している。金銭管理は金銭出納帳を作り、家族の訪問時にサインを頂いている。家族の訪問時には必ず計画作成担当者と家族が面談を行い、意見等を聞き入れている。また重要事項説明書に苦情等申し立先を明記している。
重点項目	⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 町内会に加入し、地域のお祭り、運動会、敬老会に参加している。年に1度の大掃除にも参加し、地域住民との交流が行われている。またホームで開催される敬老会、運動会、庭で収穫されるさくらんぼや野菜の収穫を地域住民と一緒に楽しんでいる。

2. 調査結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	前回の外部評価を活かし、「いきいき悠々と地域の中でその人らしく過ごしましょう」という理念を管理者、職員で考え事業所独自の理念を作り上げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ホーム独自の理念を管理者、職員で作上げたことでしっかりと共有ができています。ホームの要所要所に理念を掲示することと、タイムカードの横にも掲示し出勤時に確認し、毎日理念を振り返りケアを行なっている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入しており、運動会、敬老会、年に1度の大掃除、地域の昇開橋のお祭り等に参加している。またホームの敬老会や、運動会、みかん狩り、ホームの庭にあるさくらんぼ狩り等に呼びかけを行い、参加して頂いている。日常の買い物、電器製品の購入、修理等は地域のお店を利用している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の外部評価において、地域の中でその人らしく生活する意味の理念を掲げるようにすることが望まれる、と評価を受けた。その後、管理者、職員全員で話し合い、地域密着型としての新しい理念を作り上げている。自己評価の記入は管理者と、計画作成担当者が記入している。職員に項目ごとに自己評価の内容を確かめ記入しているが、職員によっては部分的にしか内容を理解していない。	○	外部評価の意義の理解と活用はできていたが、自己評価においては、職員は理解できていなかった。運営者、管理者、職員が共に自己評価に取り組む仕組みづくりをすることで、更なる効果を期待したい。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年に5回ほど利用者代表、家族代表、地域代表、行政代表の参加で運営推進会議を行っている。普段のありのままの姿を見て欲しいという気持ちから花見や、敬老会などの行事催し後に引き続き開催している。運営推進会議の中で「年間報告」、「利用者の現状報告」などを行っている。参加メンバーからの意見や要望について議事の記録がなく、会議で話し合われた内容が確認できない状況である。	○	運営推進会議を行事に合わせて行ったとしても、推進会議の時間を別に設定し、サービスの実際や評価の取り組み状況等についてを報告など話し合いを行い、必ず記録をし、そこでの意見をサービス向上に活かしていくことが望まれる。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	ホームだより「松の実」を介護保険課に届けている。オムツ券の申請など福祉サービス全般について問い合わせをしているが、運営推進会議以外での行き来する機会は少ない。	○	運営推進会議以外にも、ホームに来て頂くよう、再三の働きかけを行い、保険者にも地域密着の意義を理解していただき、保険者とともにサービスの質の向上に取り組んでいかれることが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
7	10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	現在1名の方が成年後見制度を利用している。外部で行われている研修に参加して伝達研修を行っている。		
4. 理念を実践するための体制					
8	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	健康状態に異変があったときは、その都度家族に報告をしている。1年に1度健康状態や暮らしぶりをまとめたものを送付している。金銭管理は金銭出納帳を作り、家族の訪問時にサインを頂いている。		
9	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に苦情箱と便箋を設置しているが、今のところ投書はない。家族からの意見収集は計画作成担当者が窓口となり、家族の訪問時には必ず面談を行い、言いやすい関係づくりをして意見を運営に反映させている。また重要事項説明書に苦情等申し立先を明記している。		
10	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動によるダメージを少なくするために、2つのユニットの職員がそれぞれ交流し、馴染みの関係ができるようにシフトの組み換えを行なっている。現在のところ離職した職員を思い出し話される利用者はいない。		
5. 人材の育成と支援					
11	19	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員採用にあたっては、性別や年齢等を理由に採用対象から排除していない。今回の国の施策に対応しフィリピンの介護職の方を2名採用した。職員は手芸や絵画等自分の得意分野や能力を発揮して生き生きとして勤務している。また自分の希望する日に休みを取ることができ、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されている。今回介護福祉士の試験を受ける職員に対しては夜勤を多くいれ、勉強の時間が多く取れるように配慮がなされた。		
12	20	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	外部研修を受け、職場に戻り職員に伝達研修を行っている。食事の場面、外出の場面等その状況に応じ利用者に対する人権を尊重できるように取り組んでいる。		
13	21	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人職員に対しては、職員がつき指導している。外部研修は、その都度段階に応じ受ける機会を確保している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
14	22	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>管理者や計画作成担当者は大牟田市認知症ケア研究会に参加をして同業者と交流する機会を持っている。職員についても同業者間の交流の機会を作る計画があったが、都合がつかず実現できなかった。</p>	○	職員についても、同業者間の交流が実現されることを期待したい。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	<p>○馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>入居を希望される利用者の入院先や自宅に職員が数回訪問をして、ホームの説明や利用者の思いを聞いている。入居前にはホームの見学や体験入居をして馴染みの関係を作っている。入居後は家族に面会をお願いしている。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>野菜の皮むきの方法を教えて頂いたり、針仕事が得意な利用者は他の利用者のほつれを直したり、職員にエプロンの作り方を教えている。また毎年干支のぬいぐるみを利用者と一緒に作り、毎年近所に配り、喜ばれ楽しみにして頂いている。</p>		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	<p>○思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>本人、家族より暮らしの希望を聞いている。また生活歴などアセスメントして、これまでの生活を把握し意向の確認をしている。意思表示ができない利用者に対しては、日々の生活の中で表情や態度を観察して思いを感じとるようにしている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	<p>○チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>利用者一人ひとりに担当職員がおり、日々の生活状況を把握している。担当職員の気づきや、モニタリングをもとに介護計画を作成している。また家族の訪問時には計画作成担当者で面談を行い、介護計画の確認をしている。</p>		
19	39	<p>○現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>介護計画の目標は基本的に半年を目標に作成されている。見直し時期の一覧表を作成し、担当職員がモニタリングをし、計画作成者の作成後、家族と話し合いをしている。入退院などで状況の変化がある場合は、再アセスメントして作成をしている。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
20	41	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	地域住民に向けて、介護教室を開催している。今年度は口腔ケアについて講義をしている。また地域の方の座学教室にホームを解放している。利用者はお客さんが来ることを喜び相互に良い関係ができています。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21	45	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医に関しては利用者、家族の希望通りにしている。通院は基本的に家族が支援をするため、受診時には状況を家族に伝え、受診後は家族より報告を受けている。家族が支援できないときは職員が通院同行をしている。		
22	49	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に重度化や終末期に向けた方針を聞いているが、今までホームでの看取りはしていない。状態に変化があったときは、家族にその都度連絡を取り合い方針を確認しながら対応をしている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
23	52	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は利用者に対してプライバシーを損ねるような声かけや対応はしていない。入浴などの介助者については、男性・女性の希望を聞き入れ対応をしている。個人情報の記録は事務所のロッカーに保管をしている。		
24	54	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	外出を希望する利用者に対しては、行動を制することなく、ホームの周辺を一周するなどして柔軟に対応をしている。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と職員と一緒にテーブルを囲み同じものを食べている。食べたい物の希望は聞き入れて献立に取り入れている。月に1回は全員で外食やバイキングを楽しむ計画をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
26	59	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週に2〜3回15時から入浴支援をしている。シャンプーや薬用石鹸など使い慣れたものを希望する利用者もいる。また、家族と定期的に温泉に行く利用者もいる。入浴日以外の入浴希望者には、足浴などで対応をしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	炊事や掃除などの家事、花の世話や荷物持ちなど、できることは見守りながらしてもらっている。裁縫ができる利用者には、ボランティアと一緒に小物づくりをしている。		
28	63	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	流鏝馬・裸ん行・雲助道中・大川木工祭り・肥後街道・諸富花火大会など地域の行事が多様に開催されているため外出の機会が多い。ホームの裏庭には梅・さくらんぼ・家庭菜園などをしており、手入れや収穫に外に出る機会を作っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかける弊害を理解しており、日中は施錠することなく生活をしている。全員で庭に出て施錠をする時は、来訪者がわかるように玄関にお知らせのプレートを下げている。また玄関にはセンサーや鈴をつけて出入りの確認をしている。		
30	73	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	今年1月19日に消防署と共同で火災を想定し、緊急連絡の仕方や消火器の使い方の指導を受けている。避難方法については話のみであった。近所の電気屋や文房具店には協力依頼をしている	○	火災を想定しての緊急時連絡方法などの演習はしているが、誘導訓練等はしていない。今後は地域住民の協力を得て、火災に限らず地震・水害なども想定して訓練されることを期待したい。また飲料水や食料・各備品の準備をされることが望まれる。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の希望を取り入れ管理栄養士に献立作成を依頼している。減塩食対応者は殆どで、水分制限者・カロリー制限者が各1人おり記録をしている。食事形態は嚥下状態に合わせ、摂食は自立できる様に傍で支援をしている。夜間の水分摂取必要者にはペット枕元にペットボトルに飲み物を入れている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関を入るとリビング入口までに空間があり、生花や写真が飾られている。テーブル・椅子が配置され、来訪者が直接利用者顔と顔を合わせることがないように配慮している。ホームの中は食卓テーブルが設置されているが、テレビ視聴が嫌いな利用者には廊下のコーナーに炬燵が用意されくつろぐことができている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
33	85	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>入居時には家族に使い慣れたものや好みのものを持ってきていただくように話をしている。実際に箆箆や炬燵などの家具を持ち込んでいる利用者は少ないが、鏡・時計・鏡台やくし・裁縫箱・かっぱ着など親しんでいるものを持ち込み生活できるようにしている。</p>		